

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第81号

H28.3.11発行



広島を誇る「希望の星」の旅立ち

五輪の舞台を目指す!!

Shinobu Koyoshikawa

小吉川志乃舞

世羅陸協
JAグループ広島
5-5
2016中国女子世界陸上

2016中国女子世界陸上大会

JAグループ広島

陸上人

長距離

FILE0019

小吉川志乃舞

世羅高校

Shinobu Koyoshikawa

社会人として五輪の舞台を目指す!!

プロフィール | 小吉川志乃舞(こよしかわしのぶ)152cm
1997年5月19日生まれ/三原市立三原第五中出身

主な成績 | ●ベスト記録 3000m9分05秒80
5000m15分36秒96
●主要大会記録 岡山インターハイ 3000m 4位 9分15秒14
和歌山国体少年女子 A3000m 3位 9分14秒34
第27回全国高校駅伝 1区 1位 19分20秒



やればいい]

気持ちを新たに臨んだインターハイ。結果は向井が3位、小吉川が4位。敗れはしたが、ゴール後の表情に一点の曇りもなかった。「悔いのないレースだった。これからは駅伝に向け、優香(向井)と2人で引っ張っていく」。10月の和歌山国体少年女子A3000mでは、9分14秒34の自己ベストをマークし、3位入賞。強く速いエースの完全復活だった。

3年間の締めくくりとして、最後に情熱を注いだのが、12月の全国高校駅伝だった。11月の県予選では、1区を走り区間記録を更新。チームは1時間8分57秒の大会新で7年連続9度目の頂点に立った。「(都大路では)入賞ではなく、優勝を目指す」力強い主将のV宣言だった。

12月20日「区間賞を取って、チームの流れをつくる」その言葉通り、小吉川は快走を見せた。有ランナーがそろそろ花の1区で、スタートから先頭を引っ張る。ラストのスパート合戦に勝ち、堂々の区間賞。勢いに乗ったチームは、初優勝の栄冠に向かって疾走した。競技場でゴールテープを切った向井と抱き合い、「みんなのおかげ。これから女子の時代がくるのが楽しみ」3年間の思いがにじむ最高の笑顔だった。

卒業後は、高橋尚子を五輪の金メダリストに育て上げた小出義明監督のもとで、五輪を目指す。「レベルの高い選手の中で、自分を磨いていきたいと思う。まずは5000mでリオ五輪を狙っていく」。広島を誇る「希望の星」は近い将来、日本の期待の星として、五輪の舞台で輝きを放つに違いない。

text by (Ko)

広島を誇る「希望の星」が、旅立ちの時を迎えた。世羅高女子陸上部前主将の小吉川志乃舞。4月から実業団のユニバーサルエンターテインメント入りする。「充実した3年間だった。世羅に進学して本当によかったと思う」トラック、ロード…。彼女の走った軌跡はそのまま、県高校女子陸上界の新たな歴史となった。

ポテンシャルの高さ、その将来性については、中学時代から折り紙付きだった。三原五中入学と同時に競技を開始。ロードでは、中1の中国中学校駅伝では同校の1区を担い、優勝に貢献。いきなり全国舞台を経験した。都道府県対抗女子駅伝では2年から県代表入りし、3年の時には3区で11人抜きを達成。脚光を浴びた。

トラックでも、その才能はきらめいていた。「雰囲気は飲まれず、力を出せた」という3年の全国中学校大会では、1500mで自己ベストをマークし、4位入賞。10月にあった岐阜国体少年女子B1500mでは7位入賞を果たした。世羅高への進学を決めたのは、ちょうどその頃。その年の世羅高女子は都大路で33位。輝かしい戦績を誇る男子の陰に隠れた存在だった。「当時は、決して強くはなかったけど、私が行って都大路で活躍するチームにしたいと思った」この決断が、小吉川にとっては大きな転機となった。

岩本真弥監督は入学前から小吉川の高い能力を見抜き、彼女を中心としたチームづくり



の構想を練った。指揮官の期待に、1年生エースは順調に応える。1年の時は1500mでスピードを磨いた。インターハイでは決勝に残ることはできなかったが、岐阜国体では少年女子Bで5位入賞。1年生ながら、誰もが認める世羅のエースとなった。

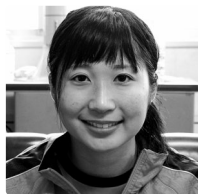
その才能を大きく羽ばたかせたのは、「持ち味のラストの切れを生かすために」と、3000mに戦いの舞台を替えた2年の時であろう。4月の織田記念で、9分17秒76の自己ベストをマーク。いきなり前年度の県ランキング1位のタイムを上回って見せた。6月には中国高校選手権を制覇。8月のインターハイでは自己ベストを更新し、2位とわずか1秒差の6位入賞。「強い選手と同じ土俵で勝負できる自信を得た」10月の長崎国体少年女子3000mでは3位入賞を果たし、成長を示した。

しかし、そんな小吉川にも試練の時がくる。「順調だったのは2年まで。3年になってからは、しんどいことばかりだった」。4月の織田記



1年生の時から全国を狙える存在として成長してきた。大事な試合で失敗しないのが良いところ。芯のしっかりした明るい性格でチームの中心となった。キャプテンであり、エースであるという存在として、チームの柱となった。今シーズンに入ってからの向井の成長が互いの刺激となり、切磋琢磨して強くなった。人間的にも大きく成長した。将来的には長い距離への適正があり、楽しみが大きい。東京オリンピックはトラックで狙いたいと言っているが、これからの伸びしろを楽しみにしている。

広島県立世羅高等学校 監督 岩本 真弥



高校駅伝では、たくさんの声援のおかげで優勝することができた。3年間を振り返るとたくさんしんどい思いをすることがあったが、信頼できる仲間や尊敬できる先生やたくさんの応援してくださる人のおかげでがんばることができた。世羅に来て本当によかった。卒業後に進むユニバーサルエンターテイメントでも結果を出していきたい。5年後の東京オリンピックでは、5000mでメダルを取りたい。

小吉川 志乃舞

皇后盃 第34回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会を終えて 15位 2016年1月17日



▲京都府広島県人会の皆さんと記念撮影

全国高校駅伝での世羅高校のアベック優勝に多くの人が感動、歓喜した2015年の年末。その2週間後、都道府県対抗女子駅伝の調整合宿を開始した。参加した中・高校生選手にとって休むことのできない正月を過ごしたと思う。何より、世羅高生にとって、大きな仕事を終えた直後に、もう一度心と体を全国に向けては容易ではなかったと想像する。そのような状態の中、調整合宿に参加した世羅高生は、昨年と比べると、はるかに高い意識の状態で臨んでくれた。これも全国優勝したプライドがそうさせていたのだと思う。

調整合宿では全国高校駅伝の疲れが残る中、必死に状態を上げていこうとする姿が目に残った。昨年、今大会を28位で終えた悔しさを選手からも感じた。大会当日、予想されていた雨も曇りに変わり、風もなく好条件のレースとなった。1区小吉川(世羅高)がトップと8秒差の区間7位と好スタートでのタスキ渡し。2区岡選手(デンソー)は一時2位まで上がる走り、広島県チームの走りをテレビで確認することができた。そして4区向井(世羅高)が一般選手の多い区間で13人抜き走り、一時17位まで落とした順位を4位まで上げた。向井から全国高校駅伝での快走を思い起こされる躍動感あふれる走りに13年ぶりの8位入賞も一瞬期待させてもらった。惜しくも8位入賞は逃し15位となったが、2000年に4位入賞(2°18'44")したタイムに次ぐ、広島歴代2位(2°19'03")のタイムだった。年間を通し、広島県選手の記録を把握していたが、一般選手の記録が伸び悩み、選手決定が例年より頭を悩ませた。今大会、広島県より上位チームの高校生出場者の平均は3名。今回の広島県チームは高校生出場者は5名。これを見て今後の課題は、一般選手の活躍は必須と言える。競技生活を続け、息の長い選手になってもらえるよう、ジュニア選手へ意識付けさせたい。今シーズンも女子駅伝広島県チーム強化のため、情熱をもってご指導いただいた先生方、そして広島陸上競技協会に厚く御礼申し上げます。

広島県女子チーム 監督 山田 貴子

向井優香選手のコメント

4区:4km / 区間2位:12'55"

- 区間賞を取れなかったのは悔しいけど順位を13上げて
- チームに貢献できたのはよかった。来年は3000mで8分
- 台で走りたい。将来的には、東京
- オリンピックで10000mに出場したい。

総合成績 / 15位 (2°19'03")

1区	7位	19'27"	小吉川志乃舞(世羅高)
2区	16位	12'52"	岡 未友紀(デンソー)
3区	24位	9'55"	榎原 沙紀(昭和中)
4区	2位	12'55"	向井 優香(世羅高)
5区	13位	13'37"	大西 響(世羅高)
6区	29位	13'40"	浅田 琴音(世羅高)
7区	36位	13'31"	藤倉 美和(世羅高)
8区	25位	10'35"	神笠 貴子(西条中)
9区	14位	32'31"	石渕ゆかり(エディオン)



2016中国女子世羅駅伝を振り返って 2016年2月14日

2月14日(日)正午。廣山一子世羅町教育委員会委員長の号砲で、オープン参加3チームを含む23チームが一斉にスタートした。今年の先導は、広島県警交通機動隊の2名の女性隊員で、昨年の『雪が舞う中でのスタート』とは打って変わって、『春一番が吹く中でのスタート』となった。世羅台地を、常時5m前後の強い風が吹く中でのレースだったが、選手たちは風を切って力走。4区間で9つの区間新記録と大会記録を2チームが更新するという素晴らしいレースとなった。中でも、最終区間の世羅陸協Aの小吉川志乃舞選手(世羅高)の走りは圧巻だった。2年連続優勝を狙う広島市体協Aに次いでタスキを受け取った時に、1分6秒あった差を、折り返し地点で40秒差に詰め、残り2kmあたりで一気に抜き去り、大会新記録でゴールした。自身も区間記録を更新する走りで、最優秀選手賞を受賞。また、中学生に贈られるドリーム賞には、2区で7人抜きをし、区間新記録をマークした呉市体協の榎原沙紀選手(昭和中)が選ばれた。世羅台地に場所を移して2回目となる今大会は、地元の声援を受けて世羅体協Aが初優勝したが、その優勝と大会の成功の裏には、地元住民の献身たるご支援ご協力があつたからだと思う。率先して中継所付近の草を刈ったり、「更衣室に自宅の建物を使って」と提供くださったり、また、100名近い方が走路ボランティアにご協力してくださったりした。まさしく『「日本一の応援団・チーム世羅」として、情熱と誇りを持ち続ける世羅町』ということを感じた一日だった。この大会を共催して下さった世羅町・世羅町教育委員会、ご協賛いただいたJAグループ広島、ご協力をいただいた世羅警察署他、関係者の皆様に心から感謝し、お礼申し上げます。

中国女子世羅駅伝競走大会 審判長 小川 珠美



天皇盃 第21回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会を終えて

2位

2016年1月24日

アンカーを予定していた鑑坂の故障がなければ優勝できていたと思うが、オリンピックを狙うために無理はさせられなかった。工藤も力はあったが、メンバー入りが直前となったために実力を発揮しきれなかった。高校生についても、体調不良が出たりして不完全燃焼に終わった面はあったが、総合的にみると実力は発揮できた。中学生もよく走った。これまでのように一般頼みではなく、ジュニアがよくがんばった。今の広島県チームは、社会人が充実しているので、今後も入賞を続ける中でチャンスがあれば優勝を狙っていきたい。これからも中学生・高校生と、継続した強化の取り組みを進めていきたい。

広島県男子チーム 監督 岩本 真弥

吉田圭太選手のコメント

5区:8.5km / 区間3位:24'41"

- 優勝できなかったと区間賞が取れなかったことは悔しい。3年生になったらインターハイ・国体で優勝したい。高校駅伝3連覇と全国男子駅伝の優勝に貢献したい。高校を卒業したら、箱根駅伝で活躍し、日本を代表する選手になりたい。



総合成績 / 2位 (2°20'43")

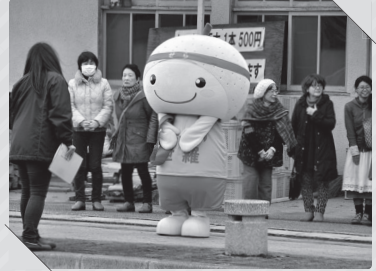
1区	11位	20'16"	中島 大就 (世羅高)
2区	3位	8'42"	前垣内皓大 (三原五中)
3区	8位	24'55"	北 魁道 (中国電力)
4区	5位	14'33"	植村 拓末 (世羅高)
5区	3位	24'41"	吉田 圭太 (世羅高)
6区	12位	9'02"	梶山林太郎 (坂中)
7区	10位	38'34"	工藤 有生 (駒沢大)



アンカー小吉川での逆転優勝は、想定内でしたが、本当に優勝できてほっとしています。地元世羅での開催ということで重圧もありましたが、世羅町の皆さまの声援に後押しされ、選手がしっかりと走ってくれました。また今大会に選手を派遣して下さった、各校の先生たちに感謝します。ありがとうございました。
世羅陸協Aチーム 監督 西原 淳



中国女子世羅駅伝で、ドリーム賞をいただくことができても嬉しかったです。この経験ができたのは、私を支えてくれている両親を始め、適確に指導してくださる監督や、一緒に走ってくれる姉、友人のおかげです。これからも私は、日々感謝の気持ちを忘れずに走って行きたいと思っています。昨年の都道府県対抗全国女子駅伝では、思うような結果が出せず自分の力の無さを痛感しました。今回の受賞を糧として昨年より良い結果を残せるよう、努力を怠らず練習に励みたいと思います。
呉市体協チーム 呉市立昭和中学校 榎原 沙紀



年代別レポート

小体連

◎第18回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会に参加して

猛暑の予選会を勝ち抜いて、全国大会のキップをつかみ、12月12日多くの見送りの中、福山駅を出発。大阪府池田市の会場へ。受付、開講式、研修、インスタントラーメン発明記念館見学と目まぐるしい時間が過ぎ、宿舎へ。大浴場、露天風呂に大喜び。夕食は豪華なバイキングに舌つづみ、ミーティング後は早めの就寝……?

13日大会当日5時半に起床。20分ほど散歩、朝練を行うチーム有。朝食後バスで万博記念公園特設コースへ。アップを兼ねてコースの下見。前日の雨でぬかるみが多数あった(レース中何人も転倒)。

まず、友好レースのスタート。矢田美咲26位。庵地祐希36位。

いよいよクロスカントリーリレーのスタート。1区森陽向19位。寺岡舞尋18位に。森藤真衣、伊藤大翔、丸谷海友、真田温大と少しずつ順位を下げて31位でゴール。目標の20位以内には届かなかったが、今回の経験と思いは今後の陸上人生に生かされると確信している。

竹尋アスリートクラブ 代表 石岡 豊明



中体連

中学生の長距離、駅伝シーズンを振り返る。夏の全北海道大会では、男子3000mで3名、女子1500m4名、女子800m3名の選手が出場した。女子は、昨年度に比べ微増したが、男子については、毎年3000mに10名前後の選手が出場していることを考えるとシーズン前半は厳しい結果となった。しかし、夏以降、多くの生徒が、3000mや1500mで自己新記録を更新し、ランキング上位層は昨年を上回り、レベルの高いものとなった。10月末には、新横浜で開催されたジュニアオリンピックA(3年)3000mに出場した前垣内皓大(三原第五)が6位に入賞する活躍であった。

11月の中国中学校駅伝では、女子は多くのスピードランナーを毎年輩出している大野東中学校が3区からトップにたち、2位に18秒の差をつけて歓喜の初優勝。男子は坂中学校が2連覇を達成。3区でトップに立つと他の学校を大きく引き離し2位との差を1分53秒差まで広げての圧巻の優勝であった。両校は、12月の全国大会に広島県代表校として出場。女子は、15位という結果であった。今回のメンバーが3人残り、出場した2年生2人が区間上位(区間6位と区間4位)で走り来年度の活躍が期待できる。また、男子は8位入賞。1区梶山林太郎(3年)と5区竹添慧史(2年)が区間賞を獲得。今回のメンバー4名が残る。来年度、長距離種目の勝負の行方は男女ともに坂中学校、大野東中学校を中心とした構図になりそうである。

今年度も都道府県駅伝、長距離ランナーの強化を目的とした選抜合宿が何度も行なわれた。また、中国女子駅伝に向け、都市単位での強化も行なわれている。これらの合宿には多くの指導者が参加する。経験豊富な指導者からメンタル面や技術面の大事さを直接聞く機会

もあり、選手の強化はもちろんのこと、指導者のレベルアップにも大きくつながっている。

中学校の部活動へは、小学校の陸上チームで基礎を学んだ生徒、かけっこに自信がある生徒、走ることが速くなりたい生徒、高校生の活躍や実業団の走りに憧れた生徒が入部してくる。しかし近年、多くの学校が頭を悩ませているのが部員の確保だ。今、小学生の指導に携わる方々が陸上競技の裾野を広げるため頑張っている。陸上の競技人口を増やし、将来生徒たちが、陸上競技をこよなく愛し、高校へ進学しても陸上競技を続けてくれることを願うと、中学生の指導に携わっている私たちに、託された使命は大きいと強く感じる。

最後に、毎日の部活動指導に加え、合同練習や練習会を支えてくださっている指導者の方々に感謝したい。

東広島市立西条中学校 鈴木 晶雄

高体連

第66回全国高等学校駅伝競走大会に出場して

平成27年12月20日、本校陸上部は11年ぶりに全国高等学校駅伝競走大会に出場することができた。私は、平成26年4月に20年間の中学校教諭を経て本校に赴任したが、「挨拶励行・時間厳守・整理整頓」の西農三訓を身につけた陸上部の生徒たちは、素直で心のこぶも上向きであった。ただ一つ気になったのは、生徒たちに「目標は?」と問うとほぼ全員が「都大路出場です。」と答えたにもかかわらず、それにふさわしい生活や練習ができていないと感じたことだった。私は、中学校での細かい指導を継続し、都大路へ出場を果たすことで、駅伝指導を教えていただいた中学校の先生方への恩返しをしたいと考えた。

年3回の都大路常連校との合宿は、生徒も私も多くの刺激をいただいた。特に目的の一番に掲げられる「生活習慣の見直し」は、日常に戻った際にも都大路出場のための生活の基準となった。

中国ブロック代表で出場させていただいた本大会は50位であった。代表校としてこの順位は真摯に受け止めないとならないと感じる。ただ本校陸上部にとっては大変貴重で意味のある経験であった。

最後に今回の出場に際し、本校の先生方、保護者・同窓会の方々、OB会や地域の方々など多くの方々のご支援とご声援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいである。今後さらに応援していただけるよう、再び都大路を目指し、短距離・投擲ブロックともども精進していきたい。

西条農業高等学校 陸上競技部 顧問 引地 真一



学生連盟

2015年6月6日に庄原市上野総合公園において、第48回広島県学生陸上競技選手権大会が、第63回広島県実業団陸上競技選手権大会と合同で開催された。今年は西日本インカレと日程が重複することもあり、参加人数が昨年より少なくなったが天候にも恵まれ無事に全競技を終了できた。

また、2015年9月11日にコカ・コーラウエスト広島スタジアムにおいて平成27年度広島県学連競技会が行われた。この大会は平日開催で競技数もリレー一種目と100m、400mのみとしたが、平日にもかかわらず9名の審判の先生方、学生審判の協力があった。大変感謝している。この大会では競技面のみではなく学生が試合運営を経験することにより、学生審判員の育成にもつながり、学生にとっても就職活動などに向けて貴重な人間関係づくりの場となる。今後も競技数を増やし、より一層充実

した大会にしていきたい。

2015年シーズンを終え、学生たちは2016年シーズンに向け1年生、2年生主体で冬季の練習を積んでいるところだ。2016年2月16日から18日にかけて東広島運動公園において春の広大会が行われている。広島大学をはじめ県内や近隣の大学、そしてわざわざ九州から足を運んでくださった大学もあり、互いに切磋琢磨し、練習を行った。2016年シーズンも昨シーズン以上の活躍を期待したい。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部 幹事長
広島修道大学 藤田 優

実業団連盟

◎全日本実業団ハーフマラソン大会(ディランゴ選手2連覇達成)

2月14日(日)に山口市の維新百年記念公園陸上競技場を発着として行われた「第44回全日本実業団ハーフマラソン大会」でJFEスチールのチャールズ・ディランゴ選手が61分00秒の好タイムで2連覇を達成した。前回大会で自身が作った大会記録(60分18秒)には及ばなかったものの、15km以降は他の選手を寄せ付けず見事な走りであった。終始余裕を持って走る姿からは、夏、秋の鍛錬期で、長い距離の練習に積極的に取り組んだ成果が表れていることを実感できるものであった。

大会後ディランゴ選手は、「この大会に向けて、良い練習が出来ていたので、記録は60分以内を狙っていた。当日は風が強く目標としていた記録は出せなかったが、2年連続で優勝することが出来て本当にうれしい。」と喜びを見せた。また、上位3選手の成績で争われる団体の部では中国電力(山崎、竹内、松井)が3位に入る活躍を見せた。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
中国電力 本多 浩隆



▲優勝ゴール

マスターズ連盟

活況の広島マスターズ陸上!
健康づくりから、日本全国空前のマラソンブームとなっている

広島マスターズ陸上でも陸上王国広島の名に相応しく「生涯スポーツ」の拡大に努めてきた。2015年度は久しぶりにスパイクを履き…全天候トラックに足を運んだ新会員が57名と過去最高になった。

まさに「青春再び!!!」の熱い思いが県民に魅せてきた証である。広島マスターズ陸上では、そんな盛り上がりを受けて新年度は①6月5日にびんご運動公園で第34回県陸上選手権大会、②8月27~28日にみよし運動公園で第35回記念中国マスターズ陸上選手権大会、そして10月30日にびんご運動公園で記録会(新設)と会員の皆さんの更なる交流を目指して大会を設け、陸上競技を楽しむ仲間を歓迎する企画とした。

また、今年度の全日本マスターズ陸上大会は新潟で開催(9月17日~19日)される。昨年度まで日本陸上選手権大会やインターハイの行われた素晴らしい競技場である。広島県からも優勝目指して、多くの仲間が参加予定だ。ぜひ、一緒にスパイクの感触を味わってみたいんか。(詳細はHPをご参照下さい)

ホームページアドレス

<http://sports.geocities.jp/mastershiroshima/>

広島マスターズ陸上 広報 前田 征四郎

第23回 全国中学校駅伝大会を終えて

2015年12月13日(日)
山口県山口市

男子の部 8位

本校陸上競技部は、広島県代表として2年連続で全国中学校駅伝大会に出場させていただいた。私は本校就任1年目である。赴任前から「坂中は強い」というイメージはあったが、その強さを生み出すために選手たちがどれだけ努力していたのかを知り、驚いた。そして、彼らに目標を達成させてやりたいと強く思った。

チームには、タイムが伸びた選手もいれば、怪我に悩まされたり、思い通りに走れなかったりして落ち込む選手もいる。長距離の指導が未経験だった私は、技術指導以外のサポートに徹した。選手と向き合い、一緒に悩みながら少しずつ前に進んでいく毎日だった。そして迎えた全国駅伝当日。選手たちは昨年の経験が活きているのか、とても落ち着いていた。1区の主将は区間賞の走りでもチームに弾みをつけて襷を渡した。以降の選手も持てる力を出し切り、8位でゴールする。初入賞の嬉しさと、全国制覇を逃した悔しさが入り混じる結果となった。

この経験を胸に、来年こそ「全国制覇」を有言実行できるよう、選手とともに日々精進していきたいと思っている。坂中陸上競技部をどんな時も支えてくださった地域や保護者の皆様、指導助言をくださった関係者の皆様に心から感謝の気持ちを伝えたい。

坂町立坂中学校 監督 得能 麻衣

僕たち坂中学校陸上競技部男子は、中国中学校駅伝大会で連覇を達成し、昨年に続く二度目の全国中学校駅伝大会出場を決めた。この一年間、昨年の16位という悔しい結果を忘れることなく、全国制覇という目標に向けてチームをまとめ、質の高い練習が全員でできるように、後輩に声をかけ続けた。

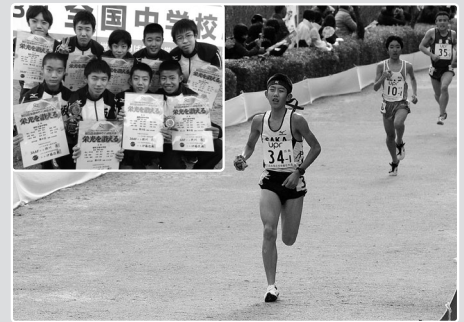
夏には3年生2人が全中大会に出場するなど、昨年の自分たちよりも力がついていることが自覚でき、秋の駅伝シーズンに向けて、チームの平均タイムを計算するのがとても楽しかった。だが、その一方で不安もあった。怪我が多く、チーム全員がそろって練習ができなかったこと、中国駅伝の予選会で、自分たちが昨年作った記録を破れなかったことだ。しかし、僕たちはこの危機感を日々の練習で払拭し、中国駅伝で昨年の自分たちの記録を上回り、優勝することができた。

全国駅伝出場が決まっていたから、毎週末、山口県に試走に連れて行っていただいた。「昨年走ったこのコースを熟知している」「昨年よりとても楽に走れる」と感じられたことが自信につながった。

大会当日、僕は昨年と同じ1区を任された。レースでは狙い通り、残り1kmからスパートをかけて、目標であった区間賞をとることができた。ところが途中で順位が大きく下がり、入賞も難しい位置になってしまった。しかし、後輩が区間賞で順位を押し上げてくれ、10位でアンカーにたすきが渡った。アンカーは3年間ずっと一緒に頑張ってきた岩本だった。ラストの直線で他チームの選手と競り合う岩本に、全力で声援を送った。結果は8位。また目標に届かなかった。優勝しなかった。悔しかった。しかし、3年間お世話になったコーチに「日本で8位。胸を張ろう。」と言っていたが、笑顔になることができた。

僕たちが成し遂げられなかった全国制覇を後輩に託したい。新チームには2年分の悔しさと、今まで以上に感謝の気持ちを持って、怪我なく練習に励んでほしい。そして最高の結果を僕たちに届けてもらいたい。

坂町立坂中学校 陸上競技部 梶山 林太郎



女子の部 15位

初挑戦の全中駅伝。当日までの毎日は、何もかもが新鮮ではあったが、右も左も分からず、とにかく「やってみよう!」で取り組んだ日々だった。ありがたいことに、坂中学校さんから多くの情報をいただき、一つずつ選手と一緒に確認しながらの練習だった。指導者として、選手に十分な情報提供をしてやることができず、申し訳なく思っている。11月・12月は完全下校5時15分となり、放課後の練習時間が30分程度しか確保できず、2学年の修学旅行も重なり、嵐のように慌ただしい日々の中での練習となったが、選手たちが高い集中力で乗り越えてくれた。

結果は目標とした10位以内には届かなかったが、全中駅伝という大きな夢の舞台はとても輝くように、その場に立てたことに、そして日頃から支え、応援してくださる保護者や地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいある。「もう一度挑戦して勝負したい!」という来年度に向けた大きな目標を、選手と一緒に立てることができた。これからも、目標を掲げて挑戦できる毎日に感謝し、精いっぱい取り組んでいきたい。

廿日市市立大野東中学校 監督 竹田 純子

私たち大野東中学校は、第23回全国中学校駅伝大会に初出場した。この全中駅伝に出場することは、平成27年度チームの夢であり、最大の目標でもあった。チームのみんなで同じ目標に向かって練習する日々はとても楽しく充実したものだった。

しかし、全国の予選会でもある中国中学校駅伝の優勝をめざすと、それなりのプレッシャーもかかった。そんな中で、11月15日の中国中学校駅伝大会本番を迎え、私たちの夢が叶い、初優勝をすることができた。

私は、アンカーで仲間の思いのこもった襷を受け取り、絶対に逃げ切るという強い意志でゴールをめざした。ゴールテープを切った時は、とても嬉しかった。毎日積み上げてきたことが、結果につながった瞬間でもあった。

そして、初めての全中駅伝へ向けて、私たちは、更に駅伝への思いを強くして挑んだ。当日は、学校関係者の方のみならず、地域の多くの方々にも、応援に来ていただいた。ここまで支えてもらった家族や、先生方や、仲間たちをはじめ、多くの方のおかげでメンバー全員が持てる力を出し切ることができた。

結果は15位という成績で、目標とした一桁順位には及ばなかったが、全国の舞台はとても楽しく充実したものだった。しかし、これが私たちの今現在の力であり現実だ。全国で優勝するチームも私たちと同じ中学生だが、全国トップのレベルを目の当たりにし、身が引き締まった。私たちは、この結果に満足したわけではない。そして、全国で14チームに負けたことも痛感している。この経験を生かして、来年は1・2年生が全国優勝をめざして頑張ってくれると思う。3年生は高校でも陸上を続け、後輩たちに負けずに頑張りたいと思っている。皆さん、これからも大野東中学校陸上部の応援よろしくをお願いします。

廿日市市立大野東中学校 陸上競技部 松本 萌恵



青少年の夢を応援します!

青少年健全育成 協力企業

●株式会社サタケ
●広島駅弁当株式会社
●株式会社広島銀行
●広島ガス株式会社

●広島電鉄株式会社
●学校法人石田学園
●株式会社中電工
●株式会社もみじ銀行

●広島総合警備保障株式会社
●有限会社ニシヒロ
●アシックス販売株式会社
●有限会社道後山高原サービス

●有限会社BTM
●株式会社体育社
●中国電力株式会社
●大塚製薬株式会社 (順不同)